

第53回日本腎臓学会総会 男女共同参画委員会企画
100617 ポートピアホール

男女共同ですすめる腎臓学のキャリアプラン

男女共同参画委員会：
更なるステップアップに向けて

日本腎臓学会男女共同参画委員会委員長
財) 田附興風会医学研究所 北野病院腎臓内科
武曾恵理

行政

大学医学部

医師のキャリア形成パス

市中病院

個人病・医院

医学部入学

医学部卒業(国家試験合格)

一次研修

一次研修

大学病院
医員

大学院入学

大学院卒業

後期研修

学位取得

勤務医医員

専門医認定・指導医認定

助手

医長

医院 病院 経営

講師

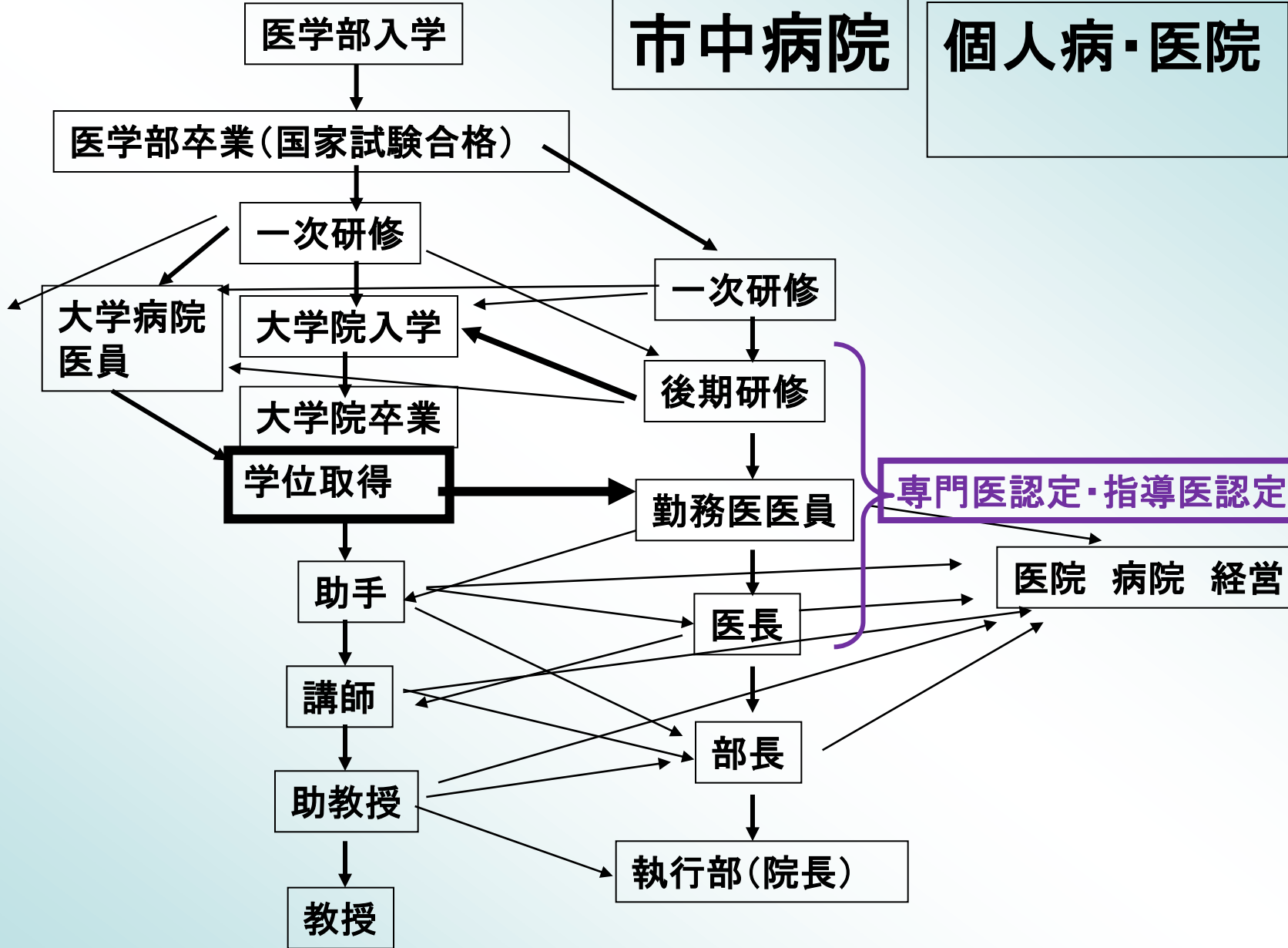
部長

助教授

執行部(院長)

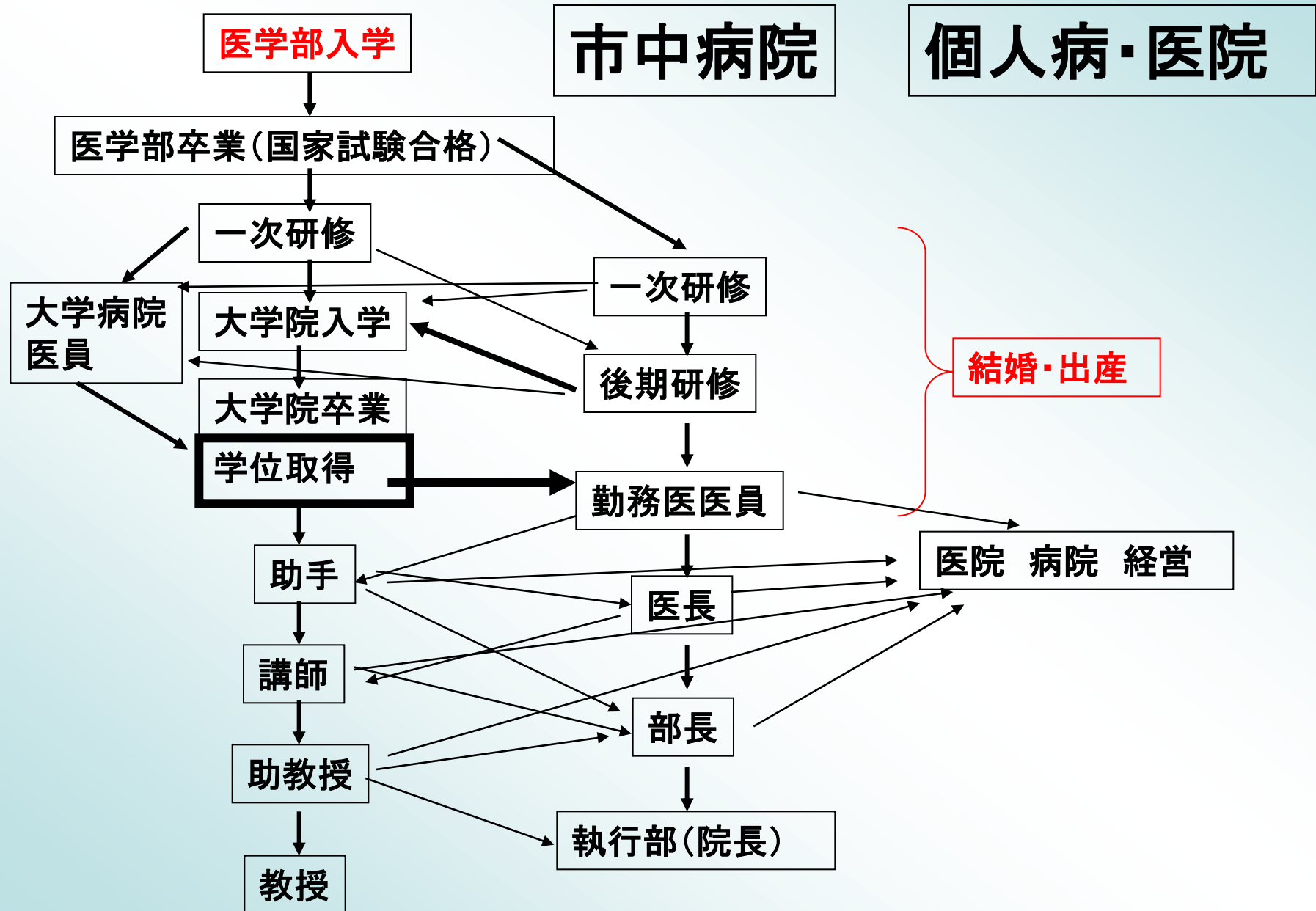
教授

保健所
衛生局
厚労省
など



大学医学部

女性医師のキャリア形成のイベント



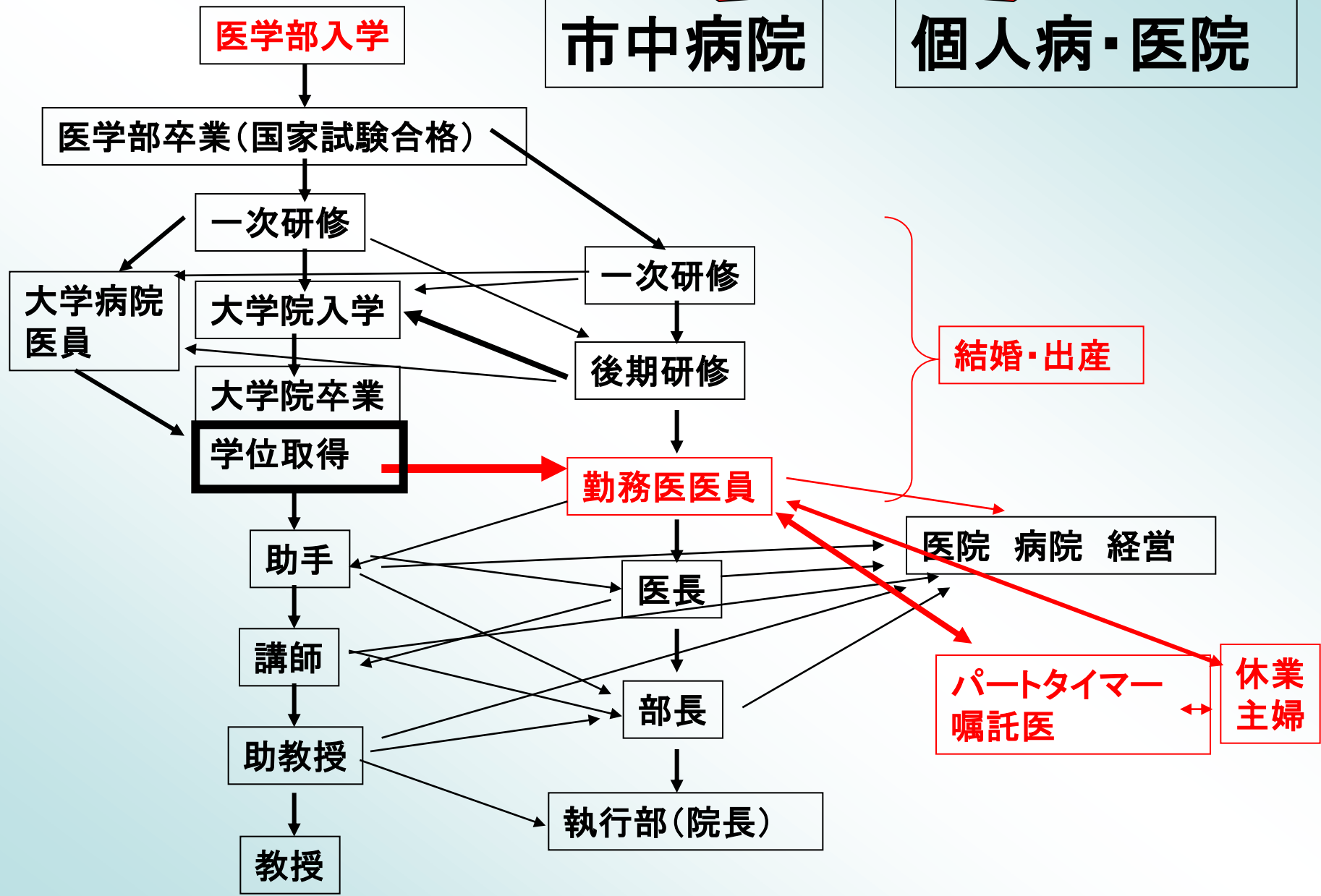
女性医師のキャリア形成のイベント

出産育児の壁

大学医学部

市中病院

個人病・医院



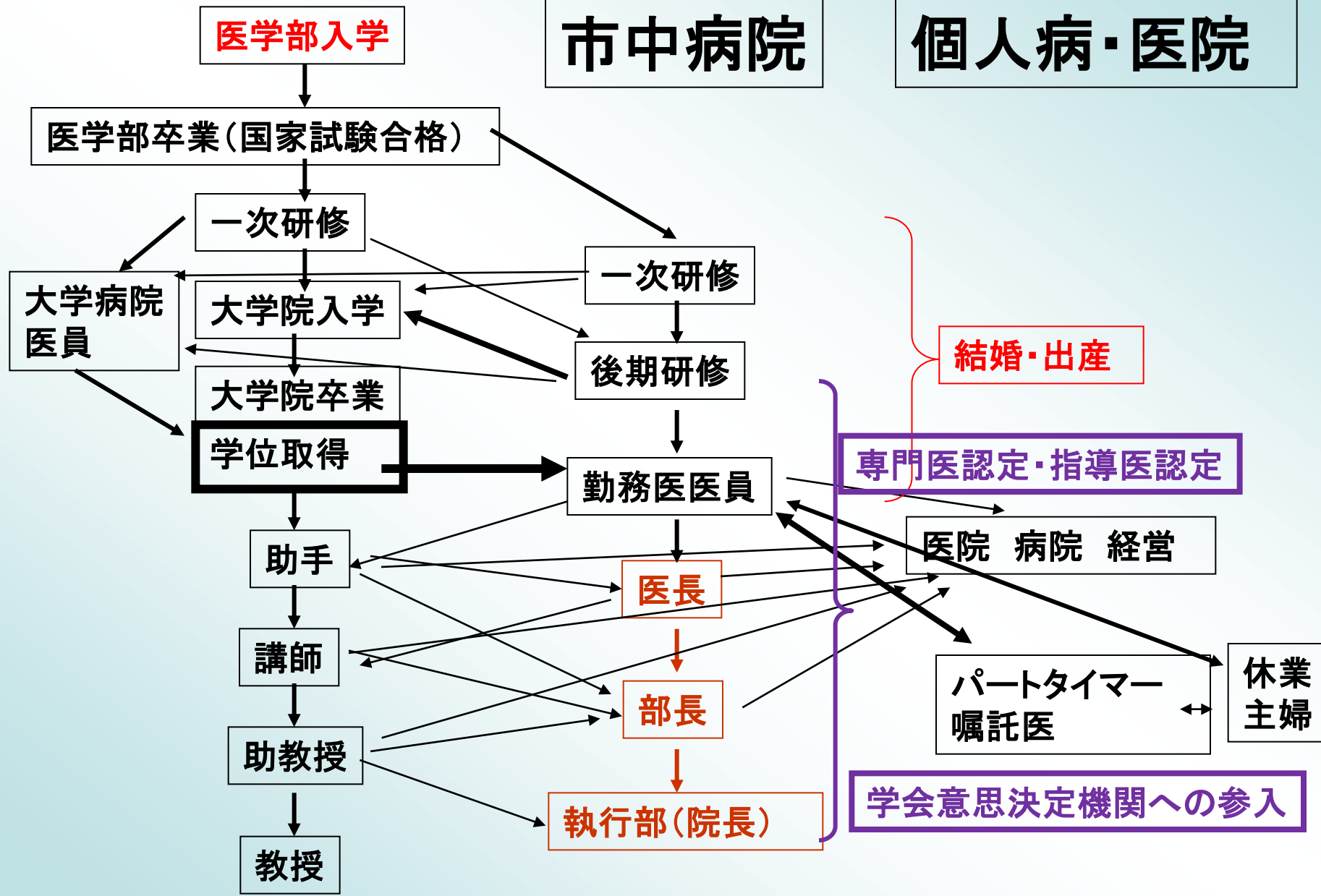
女性医師のキャリア形成のイベント

キャリアアップの壁

大学医学部

市中病院

個人病・医院

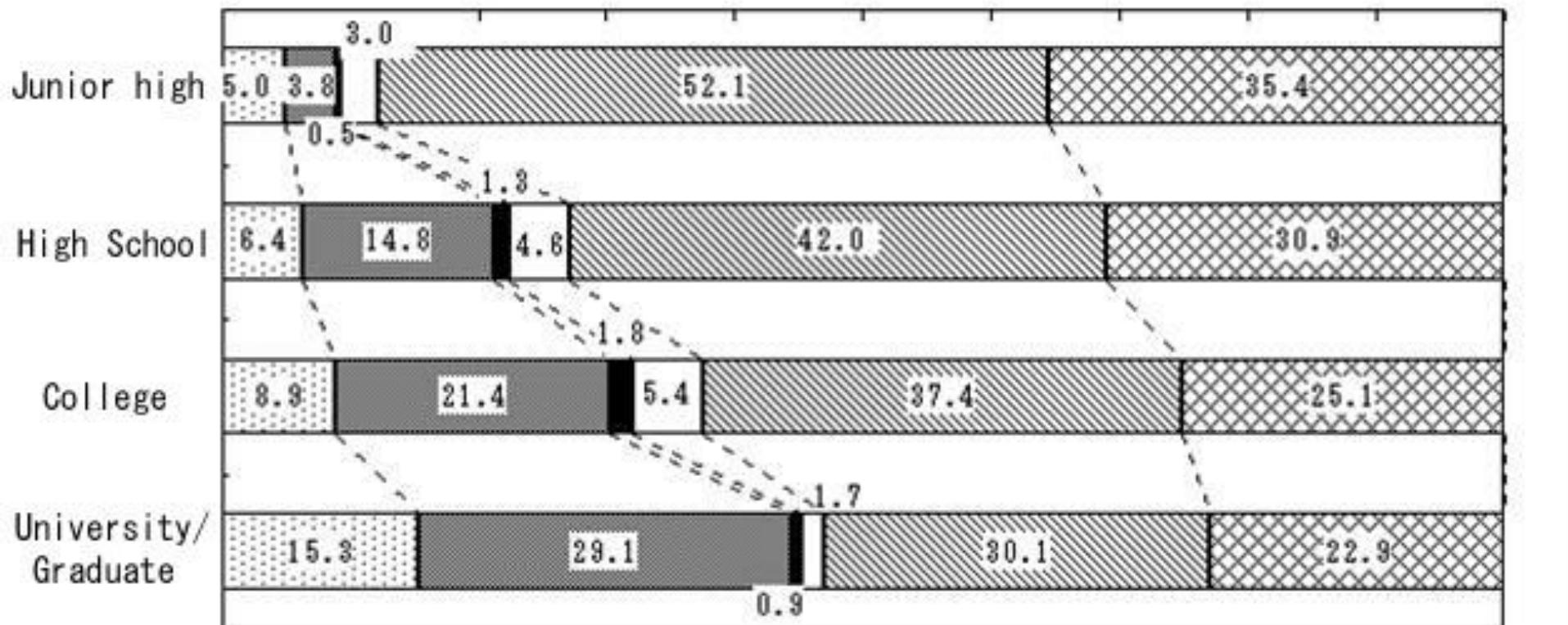


パートタイマー女性に対するアンケート(学歴別の結果)

どのような責任をもって働きたいですか。

Female

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



with leadership
 with expertise
 with full responsibility
 with some responsibility
 same as now
 don't know

学会男女共同参画委員会の必要性の背景

医師全体に占める女性医師の割合上昇

H12年：医師総数の14.3%

H21年：医学部卒業生の33%は女性

出産、育児を期に、現場で活躍しつつける女性医師の数が減少

→学会活動の休止、モチベーションの低下の可能性

原因：

- 厳しい勤務医の労働条件
- 妊娠、出産、育児などを契機現場復帰が不可
- 上位医師のモデルがない
- 学会内での専門医、指導医資格の取得条件への配慮の欠如
- 学会意思決定機関への参加の壁

結果：

- 残された男女の勤務医の勤務環境が増悪
- 医療の疲弊
- 学会員の減少、専門医レベルの低下、研究レベル低下

 日本の医療レベルの低下からの医療崩壊

日本腎臓学会男女共同参画委員会の 設立の経緯とその歩み

- 2006.4.2. 下条文武理事長に腎臓学会の男女参画委員会設立必要性を上奏
- 2006.8.8 菱田明理事長から武曾恵理評議員へ男女共同参画委員会設立案の要請書簡
「腎臓学会の女性医師を増やし、女性医師の活躍の場を保証し、腎臓学会が男女共同参画社会のありかたにふさわしい組織となる為に、腎臓学会が行うべき行動指針の作成」
1. 役員(理事・幹事)や委員会・連絡委員などのメンバーに女性医師の数を増やす。
 2. 中堅女性医師の学会活動への参加を支援し、学会での査読委員・座長への積極的登用など、将来の役員候補の育成に取り組む
 3. 他の女性医師の会とも連動して、支援策をまとめ、若い女性医師の意見を訊くアンケートの実施他
- 2006.8.12 「日本腎臓学会男女共同参画委員会設立にむけて」送付
- 2006.10.23 委員会委員の陣容決定、企画委員長、理事長承認
- 2006.12.4 日本腎臓学会理事会で委員会設立と基本方針の承認**
- 2007.5.26 第50回日本腎臓学会学術総会(菱田明会長)
特別企画:男女共同参画委員会設立シンポジウム開催
「男女で育む腎臓学会の未来像・女性腎臓専門医へのキャリア支援」
- 2008.4.1 男女共同参画委員会委員の理事・評議員・学会各委員への委嘱
- 2008.5.31 第51回日本腎臓学会学術総会特別企画シンポジウム(斎藤喬雄会長)
- 2009.6.5. 第52回日本腎臓学会学術総会特別企画シンポジウム(藤田敏郎会長)
- 2010.6.17 第53回日本腎臓学会学術総会特別企画シンポジウム開催(榎野博史会長)

その他、東部・西部部会で、パネルディスカッションを開催

日本腎臓学会男女共同参画委員会

Mission(使命)・Goal(到達目標)・Strategy(方策)

Mission (使命): より多くの医師が、個々の仕事、生活の多様性を尊重しつつ、腎臓学への取り組みを通じて男女共同で支える豊かな医療を推進する

Goal (到達目標)とStrategy (方策)

1. 次世代の腎臓学の担い手を育てるため、増えている女性医師への啓発、広報をおこなって専門医志望者の増加をうながしゆとりある医療、研究の場を提供する
 - ・初期研修での腎臓学の啓発と女子医学生への教育
 - ・HPでの、委員会設立広報
 - ・総会でのシンポジウム開催と展示ブースの開設
 - ・国内外の学会との共同
2. 各部門のリーダーとなる医師を性差なく押し上げ、男女共同して腎臓学の医療、研究、教育の充実をはかる
 - ・人材発掘と登用
 - ・役員内の男女均衡アクションによるサポート
3. あらゆる生活の局面で、腎臓学の高い専門性を維持してキャリアを途絶えさせないシステムを構築する
 - ・育児中の常勤、非常勤医受け入れ施設の広報
 - ・現場復帰プロジェクト(卒前、卒後研修委員会)
 - ・認定医、専門医制度の改変
 - ・日本透析医学会との連携
4. 職場環境、家庭環境に応じた参加しやすい学会運営を目指
 - ・託児所の設置を常態化
5. 成長途上の医師が腎臓学と取り組む上での問題に直面した際、孤立を防ぎキャリア継続と向上への意欲をサポート
 - ・相談窓口の開設

日本腎臓学会男女共同参画委員会

Mission(使命):

より多くの医師が、個々の仕事、生活の多様性を尊重しつつ、腎臓病への取り組みを通じて男女共同で支える豊かな医療を推進する。

Goal I

次世代の腎臓病学の担い手を育てるため、増えている女性医師への啓発、広報をおこなって専門医志望者の増加をうながし、ゆとりある医療、研究の場を作る。

Strategy: 啓発・広報

- 1) 初期研修での腎臓病学の啓発と女子医学生への教育
- 2) HPでの、委員会設立広報
- 3) 総会でのシンポジウム開催
- 4) 国内外の学会との連携

Goal I

次世代の腎臓病学の担い手を育てるため、増えている女性医師への啓発、広報をおこなって専門医志望者の増加をうながし、ゆとりある医療、研究の場を作る。

Strategy:啓発・広報

1) 初期研修での腎臓病学の啓発と女子医学生への教育

2) HPでの、委員会設立広報

3) 総会でのシンポジウム開催

4) 国内外の学会との連携

男女共同参画委員会の広報啓発

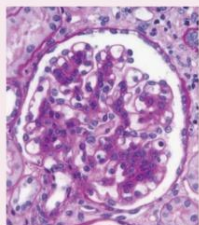
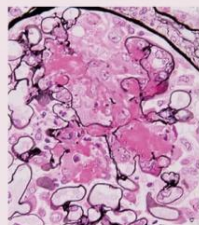
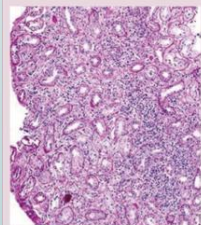
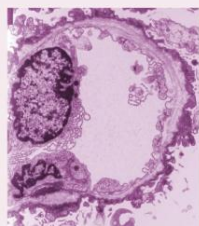
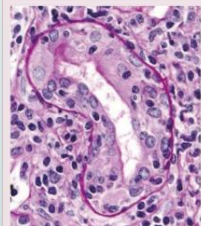
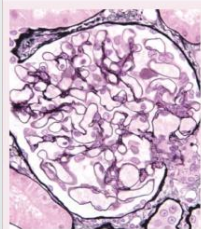
1) 学会HPでの広報

- 委員会でHP担当を決定する
- 学会広報委員会との連携（広報委員会に男女共同参画委員会から委員を送る）
- 学会HPでトップページに存在をアピール
- 連携団体にリンクをはる
- 相談受け付けの可能性（検討課題）

2) 広報パンフレットの作成

Call for Nephrology

腎臓学への誘い



日本腎臓学会男女共同参画委員会編

日本腎臓学会 男女共同参画委員会で 学会広報パンフレットを 作成しました！

- タイトルは「腎臓学への誘い」です。
- 腎臓学の幅の広さ、将来性を盛り込み、一人でも多くの医師と腎臓学の面白さを共有できたらと思い、作成しました。
- 配信に際しては学会広報委員会の全面的な支援を受けています。
- カバーの色は 男女共同参画委員の **こころ優しさ** を表現する **pink** を基調にしました。

腎臓学とは

全身の血圧や体液平衡をつかさどり、老廃物の排泄を担い、さらに酸素の需要を適度に対応。またカルシウム代謝で骨格の形成にも中心的役割を果たす腎臓という臓器の大きさ、守備範囲の広さではかり知れません。疾患やそれに対する治療も多彩で、単なる尿異常だけという進行予備軍からはじまり、腎炎・ネフローゼ症候群、さらに腎機能不全の進行に伴う諸症状、末期腎不全の代替療法の問題、また腎移植による再生医学の最先端までそのアプローチも多岐に及びます。多くの他分野の疾患とも重なり、腎臓学を深めることは医師の基本である「患者さんの全身を診ること」で、チーム医療の大切さを実感することでもあります。みなさん、是非一緒にこの分野に取り組みもうではありませんか？

腎臓学の発展性 ここに注目！

- さまざまな病態に直結する腎臓の生理；担当する領域は実に広い！
- 検査異常から腎炎・腎症、腎不全、透析、腎移植に至るまで一貫した管理が可能であり、腎臓病の各ステージから抽出されるリサーチクエストは無限大である。
- 腎臓病は全身の疾患と密接に関連することが多く、全身をトータルに管理する診療法を身につけることが可能。
- 腎臓の発生から腎臓病の成因の解明、さらには再生医療を目指した研究の進歩と可能性が開かれている。
- 増え続ける慢性腎臓病（CKD：chronic kidney disease）に対し、CKDの進展予防、さらには発症防止につながる診療法の究明は、社会的ニーズが非常に高く、近年注目されている。
- 世界でもトップクラスを誇る透析医療のさらなる発展。
- 腎臓移植における免疫学、感染症学の研究と新たな手法への発展。
- 他領域のあらゆる診療科と連携し、特に体液管理や血液浄化療法の現場で。
- 他職種と協働したチーム医療も経験豊富で、腎臓病の各ステージにおける。

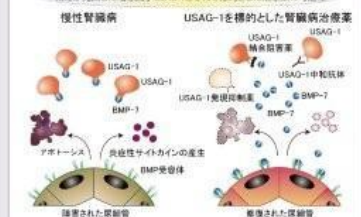
腎臓学の発展性

腎臓学の最前線 ほんの一部だけ紹介します。

基礎研究の魅力 慢性腎臓病の素因や進展機序を担う分子標的など、腎臓病学には興味深い未解明の分野がたくさんあります。私達は臨床の場で「なぜ？どうして？」をもとに基礎研究を行ない、明らかになったメカニズムをさらに臨床に還元することを目指しています。

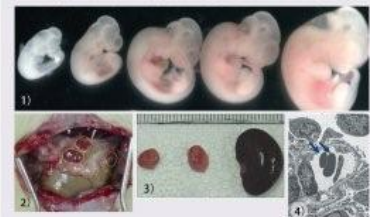


私達が発見した増殖因子USAG-1とそれを標的とした治療薬の可能性



糸球体の微細構造 蛋白尿は腎障害の症状であるだけでなく、脳・心血管イベントの重要な危険因子であることが明らかになっています。蛋白尿を抑制する新規治療法の開発は喫緊の重要課題です。蛋白尿は、糸球体上皮細胞スリット膜の傷害により発症することがわかってきました。新規治療法開発の標的分子となるスリット膜関連分子の探索を進めています。

腎臓の発生 透析に代わる新しい治療法として患者さんの腎臓をそのまま作り直してしまうという腎臓再生研究も進んでいます。これは骨髄から採取した幹細胞を胎生の発生プログラムを用いて患者さん自身の腎臓に分化させる方法です。すでにラットでは成功しており大型動物での研究が進められています。



- 1) 上図は成長過程のラット胎仔です。この体内で発生シグナルを与えます。
- 2) 下図はラット大腸内で育ったトランスクリプトーム由来腎臓です。（点線で囲った部分）
- 3) 下図は上図の再生腎臓を輸出した後、右に元のラット腎臓です。
- 4) この再生腎臓の電顕像で糸球体実質にポストの糸球体が多量に蓄積している像を示しています。（つまりポストの蓄積を抑制する機能を持つと示しています。）



腎臓医の活躍の様子

臨床もいろいろです

Nephrologists have affluent variety of work field!



クリニックでの臨床

腎臓学の臨床では、腎炎、保存期腎不全患者の診断・治療によって末期腎不全患者を可及的に減少させることに加え、末期腎不全患者の透析治療および腎移植の導入・移植後の管理に至るまで幅広く活躍できます。クリニックにおいても専門性に基づいた多彩な才能を発揮できる、やりがいのある臨床の毎日です。



基礎研究分野

基礎研究を行うことには未知の病因の解明と新規治療法の開発ですが、研究を行うことにより疾患生理への理解を深め、日常臨床で行っていることの根拠などがより明確できるようになります。originality と enthusiasm をもって、夢はStockholmへ。

CLINICAL STUDIES

臨床研究も面白いですよ！



ガイドラインの刊行に、エビデンスを数値に直視し続けるのは、日本人にとって不慣れです。基礎研究と臨床研究は医学の両輪。若さがあるなら「研究＝基礎研究」なる日本のレギュラに挑戦しなさいか？

元Playerの解説しな聞けたものではないのはスポーツ中継だけではないのだから。

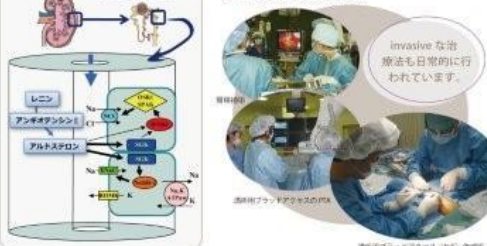
大学病院での臨床

大学病院では、教授や大勢のスタッフと共に、系統的に腎臓学を学ぶことができ、腎臓への理解がさらに深まります。



一般病院での臨床

疾患異から腎不全、腎移植後までの腎疾患を見るだけでなく心血管系合併症や感染症まで幅広い診療が実施できます。



基礎研究分野

腎臓学の臨床では複雑に絡み合った病態を持つ患者が多く、複数の臨床科と共同カンファレンスも重要です。また、腎臓カンファレンスも診断や治療法の検討には欠かせません。

PATROLOGY

腎臓学には病理は欠かせません！

患者さんを見て、腎生検組織を見て、そのきれいで不思議な活動し、形態と形態の関連を考へる...腎生検病理診断を通して高形解析を行うことは腎臓内科医の特権であり、必修課題です。患者さんの過去・現在・未来のつまった臓器の中での楽しい世界へ入っていきましょう。



EDUCATION

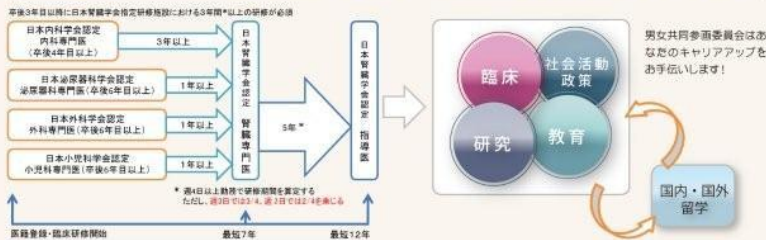
教育は基本ですよ！

大学病院では、学生への腎臓学の講義も重要な仕事のひとつです。「腎臓学は難しい」といわれる方がいますが、腎臓医をつくらぬよう、あはれは腎臓学を専門とする後輩の輩出を期待しながら講義をしています。



認定専門医までの道程とキャリアアッププラン

日本腎臓学会認定専門医までの道程と更なるキャリアアッププラン



運営：日本腎臓学会男女共同参画委員会

発行：2010.2.1

男女共同参画委員会の設立の経緯

ご希望の方は……

日本腎臓学会事務局

office@jsn.or.jp

へメールで配送依頼してください。

男女共同参画委員会の設立の経緯

わが国の女性医師が医師全体に占める割合は約17%ですが、年々増加しており、医学部卒業生のうち33%が女性となりました。一方、勤務医の先生方の労働環境は厳しく、その中で女性医師が出産、育児などを経て、そのキャリアを維持していくことは困難で、また昇進への昇進の機会も十分でなく、勤務医全体のモチベーション低下を招くという医業全体の問題が2005年ごろから表面化していました。日本腎臓学会でもその会員数に占める女性医師数は増えてきており、男女を問わずその会員が腎臓学を専攻する熱意を維持するために、またさらなる会員の増加により腎臓学を志した医師としての自己実現を目指してもらうために、学会としての取り組みが必要であることが認識され、日本女性腎臓医の会 (Japanese Society of Woman Nephrologist: JSWN: 2002年創設) の有志から、歴代本学会の理事長先生へ委員会設立の必要性を働きかけていました。2006年、委員会設立趣意書作成の要請が理事会からあり、第一期の委員の陣容も男女、地域をかんがみ選定され、2006年12月の理事会での正式認証をへて活動を開始し、翌2007年5月の第50回総会において、設立シンポジウムが盛況裡に開催されました。この委員会のミッションとゴール(表)に沿って、その後の活動は活発に展開されており、委員の増加、さらにオプザーバーの方々参加など、ますます多彩となりつつあります。皆様のご注文、ご意見を歓迎します。



日本腎臓学会男女共同参画委員会

Mission (使命) ・ Goal (到達目標) ・ Strategy (方策)

- Mission (使命)
多くの医師が、個々の仕事、生活の多様性を尊重しつつ、腎臓学への取り組みを通じて男女共同で支える豊かな医療を推進する
- Goal (到達目標) と Strategy (方策)
1. 次世代の腎臓学の担い手を育てるため、増えている女性医師への啓発、広報をおこなって専門医志望者の増加をうながし、ゆとりある医療、研究の場を提供する
 - ・初期研修での腎臓学の啓発と女子医学生への教育(研修セミナーへの参加)
 - ・HPでの、委員会設立広報(設立完了、広報中)
 - ・総会でのシンポジウム開催と展示ブースの開設(実行中)
 - ・国内外の学会との連携
- 2. 各部門のリーダーとなる医師を性差なく押し上げ、男女共同して腎臓学の医療、研究、教育の充実をはかる
 - ・人材発掘と登用 (女性評議員、座長の増加)
 - ・登壇の場(学会発表)を増やす(特別招待講演、委員会での女性特別発表など)

着払い宅急便で送らせていただきます。

腎臓学を目指す仲間の輪をさらにひろげるため、是非お役立てください。

Goal I

次世代の腎臓病学の担い手を育てるため、増えている女性医師への啓発、広報をおこなって専門医志望者の増加をうながし、ゆとりある医療、研究の場を作る。

Strategy: 啓発・広報

- 1) 初期研修での腎臓病学の啓発と女子医学生への教育
- 2) HPでの、委員会設立広報
- 3) 総会でのシンポジウム開催
- 4) 国内外の学会との連携

各学術集会でのシンポジウム・ パネルディスカッション

- 内容・テーマの選び方
 - 総会では全体にかかわる話題（個人史は避ける）
 - 総会では全員で人選、テーマ決定をする。
 - 地方会（東部、西部部会）では個人の症例も入れて具体性をだす。
 - 地方会では当番が話題を担当
- 時間の設定
 - 総会は午後、2時間はとる
 - 地方会は早朝、夕方など1時間余りで他のプログラムのない時間を使う

Goal I

次世代の腎臓病学の担い手を育てるため、増えている女性医師への啓発、広報をおこなって専門医志望者の増加をうながし、ゆとりある医療、研究の場を作る。

Strategy:啓発・広報

- 1) 初期研修での腎臓病学の啓発と女子医学生への教育
- 2) HPでの、委員会設立広報
- 3) 総会でのシンポジウム開催
- 4) **国内外の学会との連携**

平成22年5月27日・山形テルサ

第46回日本肝臓学会総会 男女共同参画委員会特別企画

男女共同参画委員会に何をのぞむか

学会の男女共同参画委員会のミッション をどう実現するか ～日本腎臓学会からの提言～

日本腎臓学会男女共同参画委員会委員長
財) 田附興風会医学研究所 北野病院腎臓内科
武曾恵理

Goal II

各部門のリーダーとなる医師を性差なく押上げ、男女共同して腎臓病学の医療、研究、教育の充実をはかる。

Strategy :人材発掘と登用

役員内の男女均衡アクションによるサポート

男女共同参画委員会での委員登用の方向性

- 男女比は1:2を目指す。
- 年長者はアドバイザーに回ってもらい、実行戦力は若手を入れる。
- 大学教官、病院勤務医、開業クリニック医、をとる。
- 地方性を考慮
- 学会各委員会委員を併任して学会意思決定に絡む。
- 論文作成業績のあるものは学会誌editorial boardに推挙
- 次世代のためにオブザーバーを設け、1年共同で働いていただき、実行委員になるかを決定。
- HPでの公開(写真入り)

学会意思決定機関への参画 (女性会員の参加度)

理事：1／20

監事：1／20

法人評議員：6／150

委員会：編集、財務、専門医制度、渉外、企画
、広報、倫理、の各委員会に1－2名

査読委員：1／40

Goal III

あらゆる生活の局面で、腎臓学の高い専門性を維持してキャリアを途絶えさせないシステムを構築する。

Strategy: 育児・介護支援（継続的対応）

- 1) 育児中の常勤、非常勤医受け入れ施設の広報
- 2) 現場復帰プロジェクト（卒前、卒後研修委員会）
- 3) 認定医、専門医制度の改変
- 4) 日本透析医学会との連携

北野病院復帰プロジェクト分科会 復帰プログラム例(腎臓内科)

[腎臓内科 復帰プログラム]

復帰後の経過月 →

	業務大項目	個別項目	復帰から1カ月		2-12カ月(分割も可能です)				1年以後	
			Oor× (内にO×を記入)	指導下or独立 (該当をOで囲む)	()カ月~()カ月	()カ月~()カ月	(4)カ月~(12)カ月	Oor× (内にO×を記入)	指導下or独立 (該当をOで囲む)	Oor× (内にO×を記入)
全科ともご記入 ↑	①外来	・健診	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	()	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		・一般	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	()	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		・科別専門(腎臓内科)	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	()	指導下・独立	(O)	指導下・独立
	②病棟	・入院患者受け持ち	(×)	指導下・独立	(×)	指導下・独立	(×)	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		・救急対応(日勤)	(×)	指導下・独立	(×)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立
	☆③から下の欄には各科個別の復帰プランをご記入お願いいたします。 (1カ月) (1カ月)									
この難形は4枠ですが、別紙追加可能です ↑	③透析	[日勤]	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	()	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		[準夜勤]	(×)	指導下・独立	(×)	指導下・独立	()	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		[緊急当番(夜間、休日)]	(×)	指導下・独立	(×)	指導下・独立	()	指導下・独立	(▲)	指導下・独立
		[]	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	(1カ月)	指導下・独立
	④検査	[腎生検(穿刺)]	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	()	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		[腎生検(病理)]	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	()	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		[超音波]	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	()	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		[]	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立
		[]	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立
	⑤治療手技	[ダブルルーメンカテ挿入]	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立	(O)	指導下・独立
		[PTA]	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立
		[シャント手術]	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立
		[CAPDカテ挿入]	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立	(▲)	指導下・独立
	⑥	[]	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立
[]		()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	
[]		()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	
[]		()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	
[]		()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	
[]		()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	()	指導下・独立	
勤務属性 ↑	☆これより下の欄は、勤務条件等です									
	出勤日数(週あたり)		1-3日()		3日以上()		3日以上()		5日以上()	
	時間外勤務		×()		△()		△()		○(▲)	
	当直勤務		×()		×()		×()		▲()	
	復帰カリキュラム費用徴収		なし()		なし()		なし()		なし()	
	身分・待遇		非常勤 嘱託		非常勤 嘱託		常勤 嘱託		常勤 嘱託	
	社会保険の資格取得 注)		あり;注		あり		あり		あり	

△: オプションで施行

▲: 本人申し出により、子供が小学校就学前まで免除

注: 社会保険は週基本勤務時間が25時間以上あることが目安

[網掛欄は必須項目です。全科記入お願いいたします]

学会での復帰プロジェクト支援

- 復帰プロジェクト施設のアンケートによるHPでの公開。(全国13施設が受け入れ中)
- 復帰希望者は直接施設に連絡
- 卒前・卒後研修委員会との連携でプログラム案を出す。
- 復帰プログラム講習会開催(未実行)

Goal III

あらゆる生活の局面で、腎臓学の高い専門性を維持してキャリアを途絶えさせないシステムを構築する。

Strategy: 育児・介護支援（継続的対応）

- 1) 育児中の常勤、非常勤医受け入れ施設の広報
- 2) 現場復帰プロジェクト（卒前、卒後研修委員会）
- 3) 認定医、専門医制度の改変**
- 4) 日本透析医学会との連携

認定医制度改変に向けて

- 専門医を増やすことは学会の使命
- 定款の変更(部分勤務での研修認定に向けて)
 - 旧)週4日以上勤務する期間を研修期間と認定
 -
 - 新)勤務日数に応じた研修年度の算定
 - 例:週2日勤務2年で、研修1年とする。
- 認定医制度委員会に男女共同参画委員会から委員を送って定款変更動議を提出、実現を早める。
- 腎臓学会では最初の公的な委員会の実績

Goal IV

職場環境、家庭環境に応じた参加しやすい
学会運営を目指す。

Strategy: 育児・介護支援(短期的対応)
学会、研究会での託児所の設置を常態化

Goal IV

職場環境、家庭環境に応じた参加しやすい
学会運営を目指す。

Strategy: 育児・介護支援(短期的対応)
学会、研究会での託児所の設置を常態化
→総会(学会主導開催)での
お子様1人一律千円での預かり

Goal V

成長途上の医師が腎臓病と取り組む上での問題に直面した際、孤立を防ぎキャリア継続と向上への意欲をサポートする。

Strategy : 相談・助言
相談窓口の開設

Goal V

成長途上の医師が腎臓病と取り組む上での問題に直面した際、孤立を防ぎキャリア継続と向上への意欲をサポートする。

Strategy : 相談・助言

相談窓口の開設 → 学会会場でのブース開設
相談室の開設

日本腎臓学会男女共同参画委員会

Mission(使命)・Goal(到達目標)・Strategy(方策)

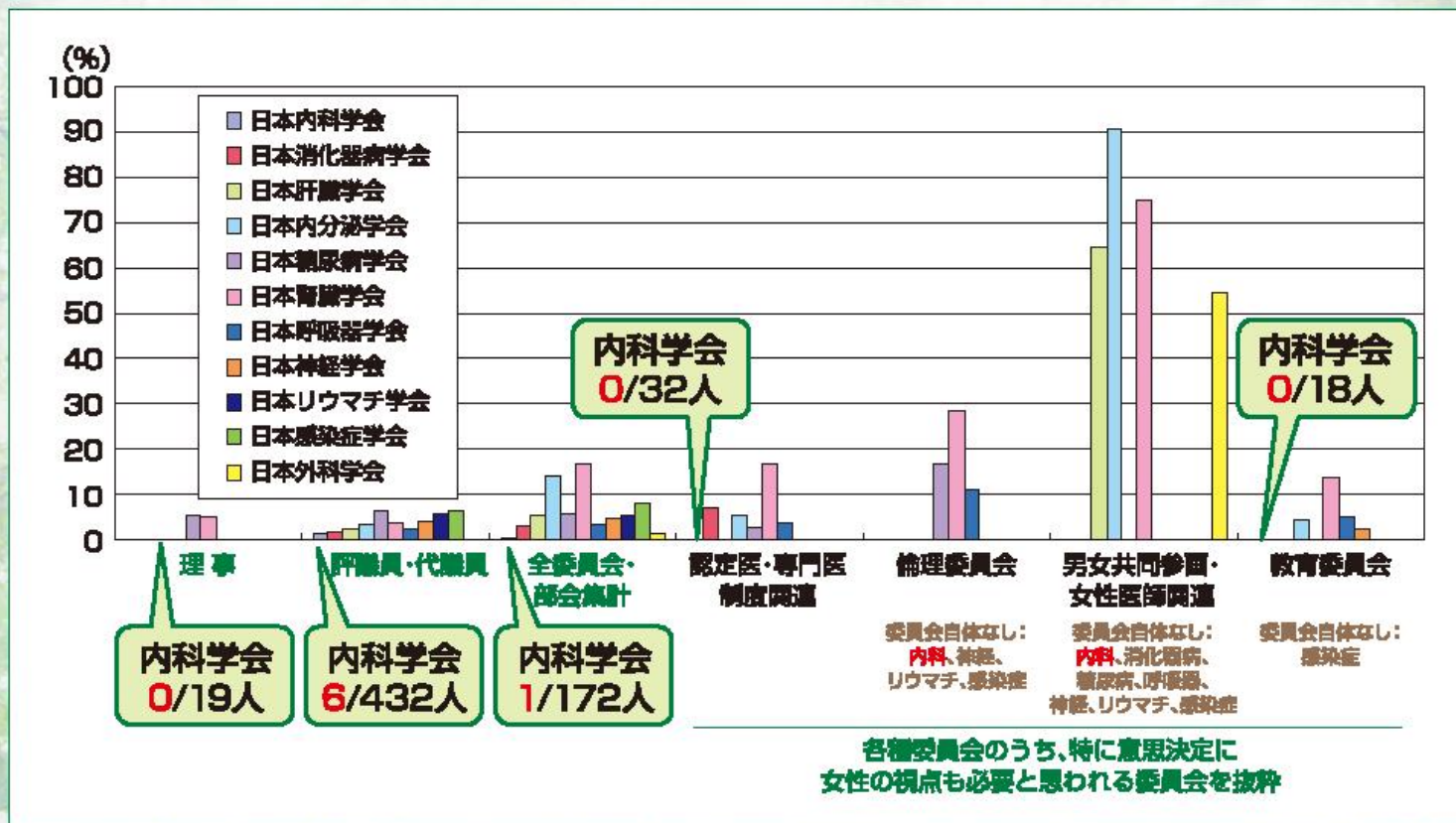
Mission (使命): より多くの医師が、個々の仕事、生活の多様性を尊重しつつ、腎臓学への取り組みを通じて男女共同で支える豊かな医療を推進する

Goal (到達目標)とStrategy (方策)

1. 次世代の腎臓学の担い手を育てるため、増えている女性医師への啓発、広報をおこなって専門医志望者の増加をうながしゆとりある医療、研究の場を提供する
 - ・初期研修での腎臓学の啓発と女子医学生への教育(研修セミナーへの参加)
 - ・HPでの、委員会設立広報(設立完了, 広報中)
 - ・総会でのシンポジウム開催と展示ブースの開設(実行中)
 - ・国内外の学会との連携(日本内科学会、日本肝臓学会、ASN)
2. 各部門のリーダーとなる医師を性差なく押し上げ、男女共同して腎臓学の医療、研究、教育の充実をはかる
 - ・人材発掘と登用(女性評議員、座長の増加)
 - ・役員内の男女均衡アクションによるサポート(各委員会への女性評議員の参入、理事、評議員の増加)
3. あらゆる生活の局面で、腎臓学の高い専門性を維持してキャリアを途絶えさせないシステムを構築する
 - ・育児中の常勤、非常勤医受け入れ施設の広報(アンケート実施)
 - ・現場復帰プロジェクト(卒前、卒後研修委員会)(第2回アンケート実施)
 - ・認定医、専門医制度の改変(改変完了)
 - ・日本透析医学会との連携(日本透析医学会男女共同参画委員会との協働)
4. 職場環境、家庭環境に応じた参加しやすい学会運営を目指
 - ・託児所の設置を常態化(実行中)
5. 成長途上の医師が腎臓学と取り組む上での問題に直面した際、孤立を防ぎキャリア継続と向上への意欲をサポート
 - ・相談窓口の開設(学会ブース、相談コーナー実行中)

日本内科学会・関連学会の意思決定の場 女性比率

—この比率、どう思われますか?—



今後の展開予定

1. 委員会活動のすそ野の広がりを目指して。

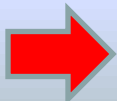
- オブザーバー、タスクフォースのノミネーション→委員メンバーの刷新
- 男女比の均等化をさらに目指す。

2. 評議員メールを通じた活動からのメッセージ

- トップ層、指導者層に向けて。→**現状を維持、発展させるために不可欠な施策であることの認識を徹底。**
- 若い会員に向けて。→**自身の自己実現が社会の豊かな医療に結びつくことの確信**

3. 学術活動への参画の推進

- 現委員の各委員会への役割を拡大
- Clinical experimental nephrology(CEN)のeditorial boardへの女性キャリア会員の推薦
- **アジア、ASN, ISN, での協働推進**



心がけること

- 施策の振り返りを怠らない。
- 変化を楽しむ柔軟性を保つ。
- 一歩先を見据える視点を持つ

日本腎臓学会男女共同参画委員会
Mission(使命)・Goal(到達目標)・Strategy(方策)

Mission(使命):

より多くの医師が、個々の仕事、生活の多様性を尊重しつつ、腎臓病への取り組みを通じて男女共同で支える豊かな医療を推進する。